28 12 20 新潟日報

視覚障害者の外出支援

付き添い役養成へ研修会

視覚障害者がバスに乗り降りする際のガイドの仕方を学ぶなどした研修会＝16日、長岡市大手通1

視覚障害者の外出に付き添う「同行援護」のガイドヘルパーを養成する研修会が、アオーレ長岡などで開かれた。参加者はバスに乗り降りする際のガイドを体験するなどし、サポートするコツや障害者が求める情報について学んだ。

「同行援護」は視覚障害者の外出時、付き添いながら道路状況などを伝えたり、乗り物に一緒に乗ったりする。代読や代筆も行う。国の方針で2018年度から資格が必要となることなどから、ヘルパー養成に向け県視覚障害者福祉協会が研修会を開いた。長岡市内外の33人が受講し、狭い視野を体験するなどした。

16日には、障害者役と案内役に分かれて路線バスの乗り降りを体験。案内役は「これから3段のステップを昇ります」と階段の段数などの情報を伝えてから、障害者役の手を手すりに導いた。

長岡市上除町の介護福祉士、飯田亜紀子さん(48)は「どんな情報も言葉で伝えなくてはならず、気が抜けない仕事だと思った」と話した。協会の松永秀夫理事長は「いいガイドが多く育てば、障害があっても外出しやすくなる。興味がある人は研修に参加してほしい」としている。